第14章 同和問題・部落差別について

(1) 同和問題・部落差別の認知度

問 35. あなたは、日本社会に「同和地区」、「被差別部落」などと呼ばれ、差別を受けてきた地区があること、あるいは「同和問題」「部落問題」「部落差別」といわれる問題があることを知っていますか。(○印は１つ)

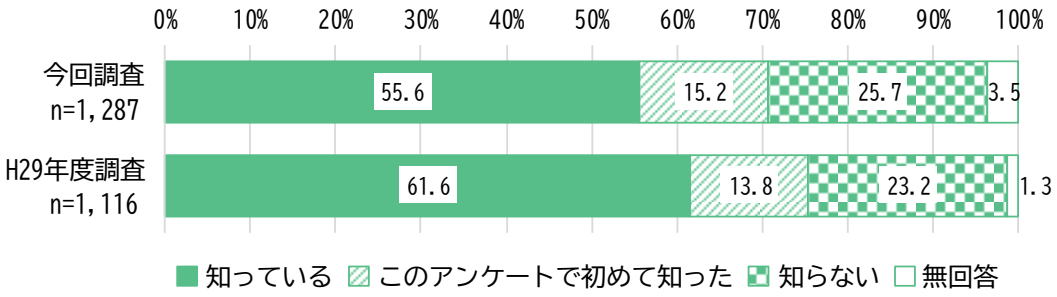
➢ 全体

「知っている」が 55.6%で最も多く、次いで「知らない」が 25.7%、「このアンケートで初めて知った」が 15.2%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「知っている」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 14-1 同和問題・部落差別の認知度



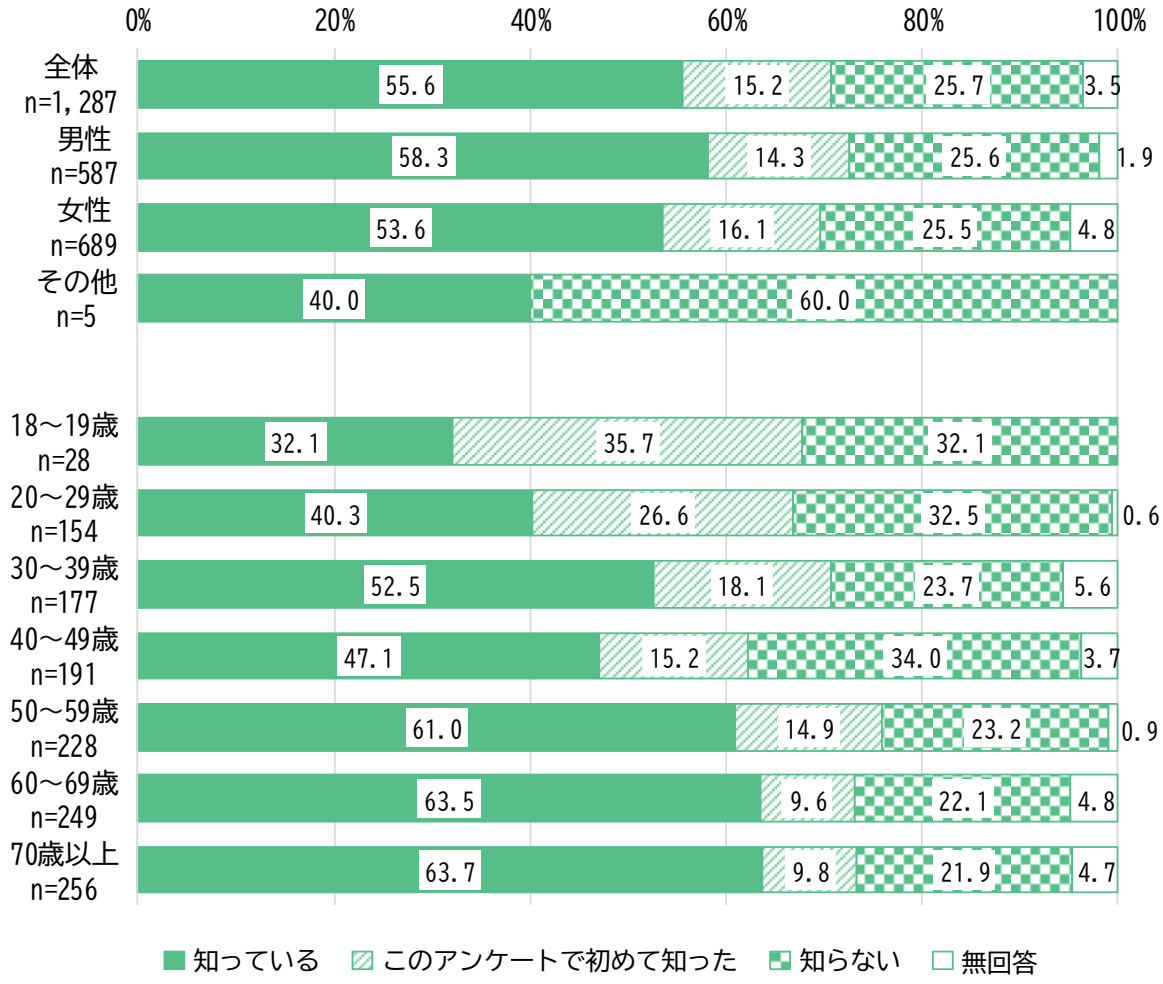
➢ 性別

“男性”で「知っている」が 58.3%と、“女性”より多くなっています。

➢ 年齢別

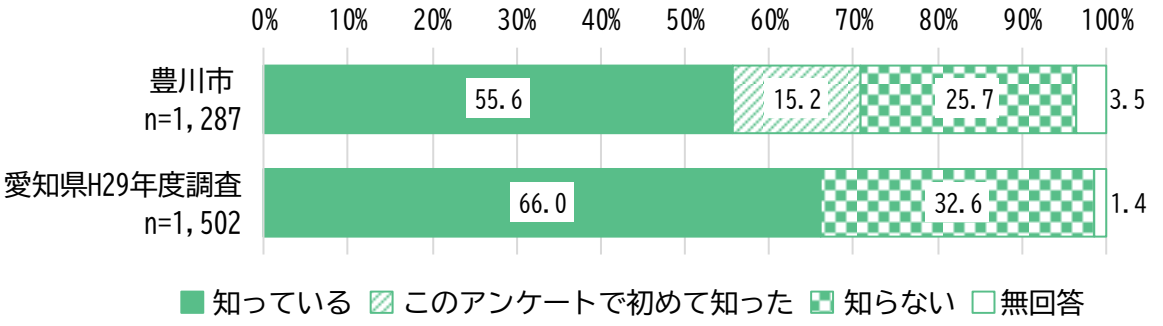
「知っている」は年齢が高くなるにつれて概ね多くなっており、「このアンケートで初めて知った」は少なくなる傾向があります。「知らない」は“18～29 歳”“40～49 歳”で多くなっています。

図 14-2　同和問題・部落差別の認知度（性別・年齢別）



➢ 参考　平成 29 年度愛知県調査との比較

図 14-3　同和問題・部落差別の認知度（平成 29 年度愛知県調査との比較）



（2）同和問題を知った時期 ………………………………………

問 36.【問 35 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。】
あなたが、同和地区や同和問題について、はじめて知ったのはいつ頃ですか。
（〇印は１つ）

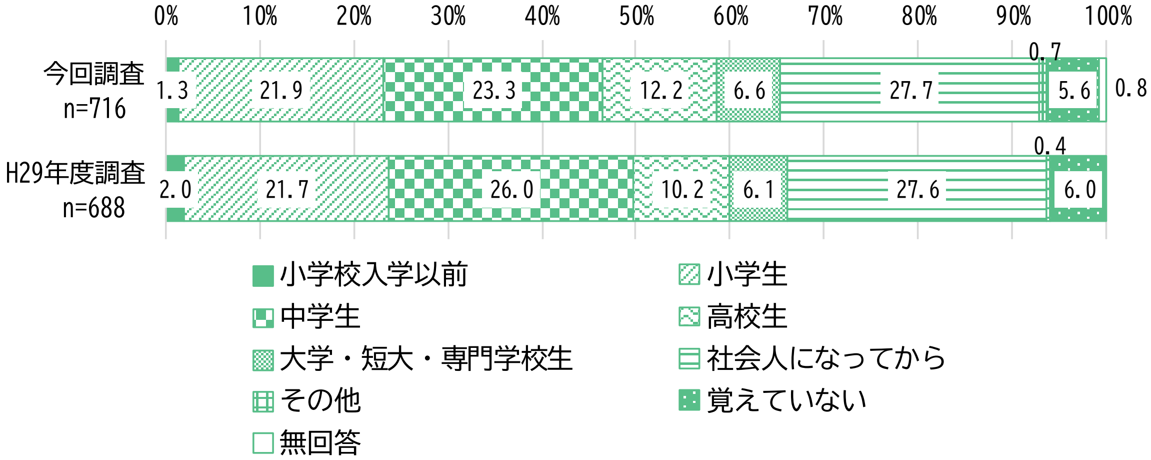
➢ 全体

「社会人になってから」が 27.7%で最も多く、次いで「中学生」が 23.3%、「小学生」が 21.9%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今年度の調査と平成 29 年度調査は、ほぼ同じ傾向となっています。

図 14-4　同和問題を知った時期



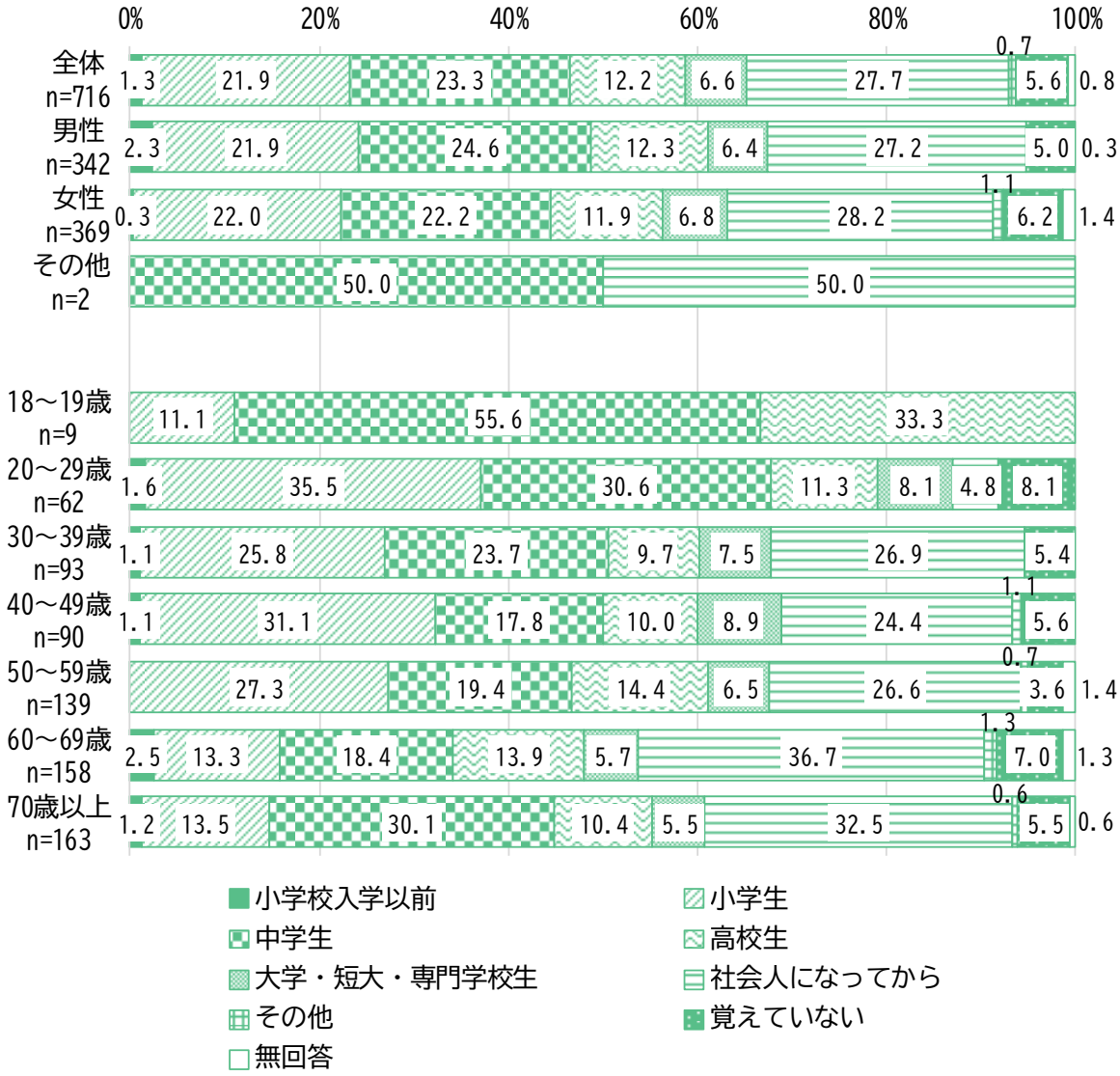
➢ 性別

男女ともにほぼ同じ傾向となっています。

➢ 年齢別

“20～29 歳”で『中学生まで』が他の年齢層よりも多くなっており、「社会人になってから」は 4.8%と少なくなっています。また、“70 歳以上”で「中学生」(30.1%)、“60 歳以上”で「社会人になってから」(32%以上）が多くなっています。

図 14-5　同和問題を知った時期（性別・年齢別）



（3）同和問題を知ったきっかけ ・・

問 37.【問 35 で「1．知っている」と答えた方にお聞きします。】
あなたが、同和地区や同和問題について、はじめて知ったきっかけは何ですか。
（○印は１つ）

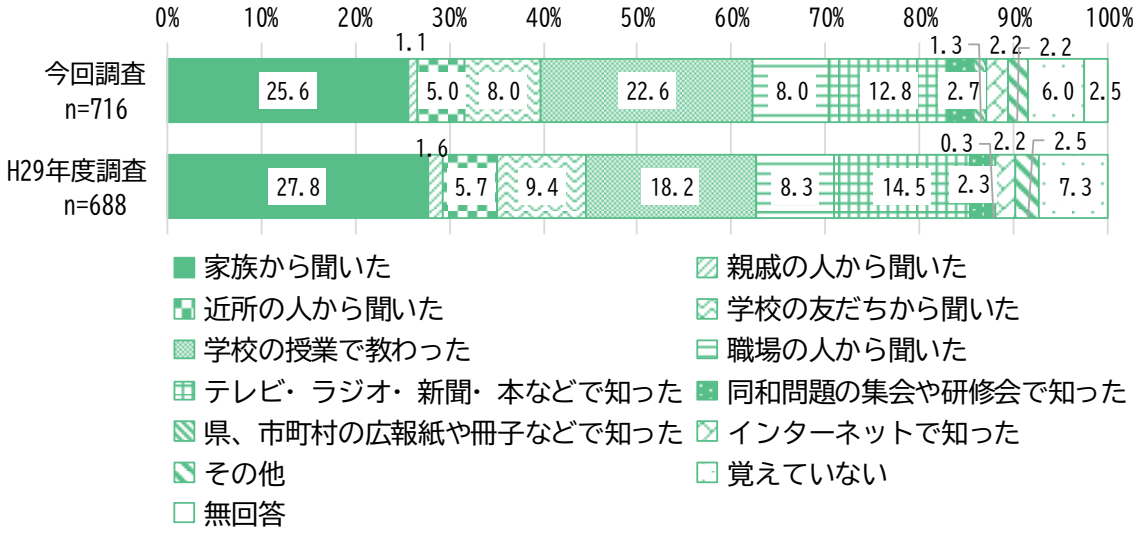
➢ 全体

「家族から聞いた」が 25.6%で最も多く、次いで「学校の授業で教わった」が 22.6%、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」が 12.8%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「学校の授業で教わった」が平成 29 年度調査よりも多くなっています。

図 14-6　同和問題を知ったきっかけ



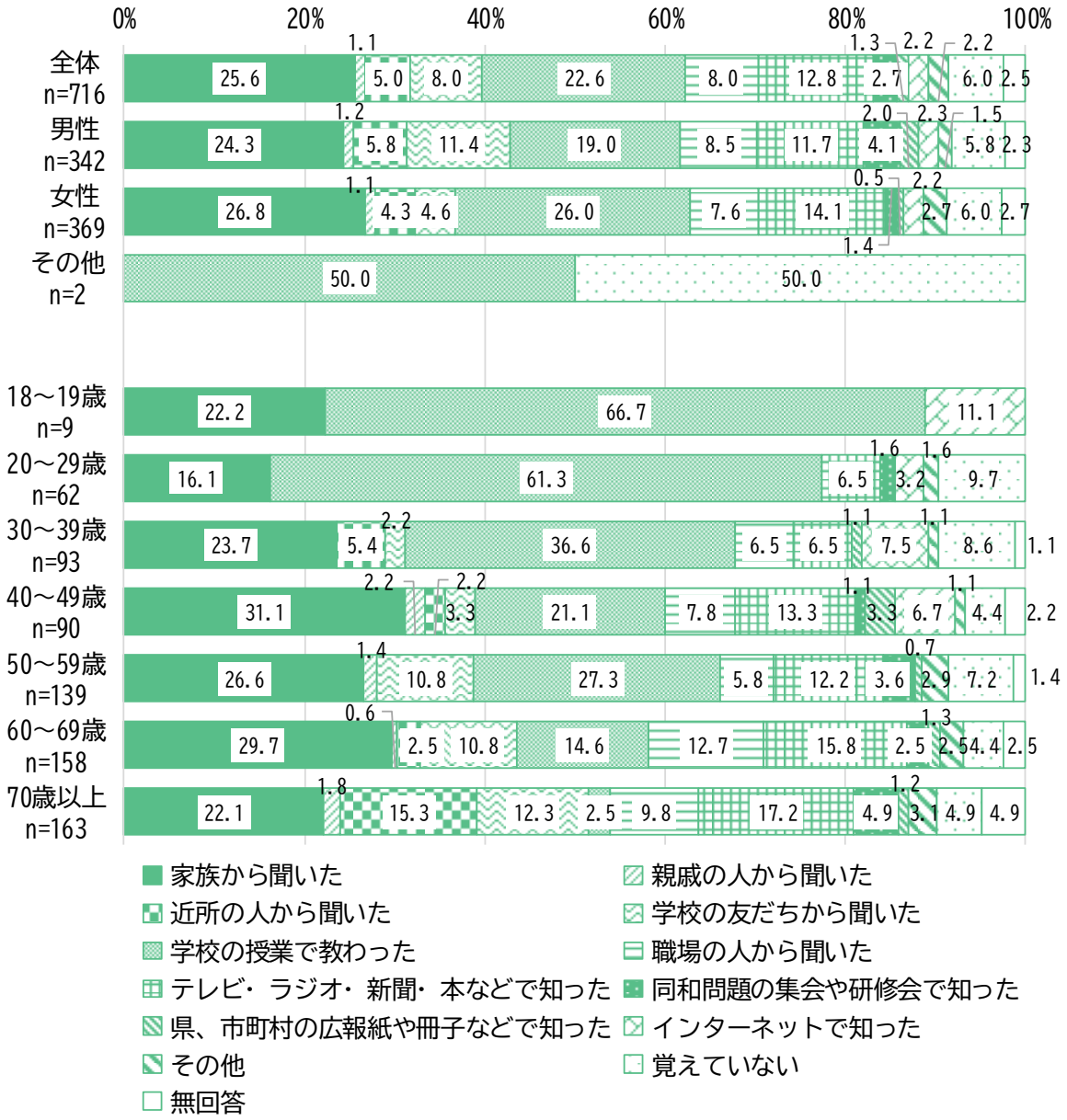
➢ 性別

“男性”で「学校の友だちから聞いた」が 11.4%と、“女性”より多くなっています。一方“女性”では「学校の授業で教わった」が 26.0%と、“男性”より多くなっています。

➢ 年齢別

概ね若い年齢層で「学校の授業で教わった」が多くなっています。また、“40～49 歳”“60～69 歳”で「家族から聞いた」(29%以上)、“70 歳以上”で「近所の人から聞いた」(15.3%)が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 14-7　同和問題を知ったきっかけ（性別・年齢別）



（4）現在の同和問題・部落差別の状況

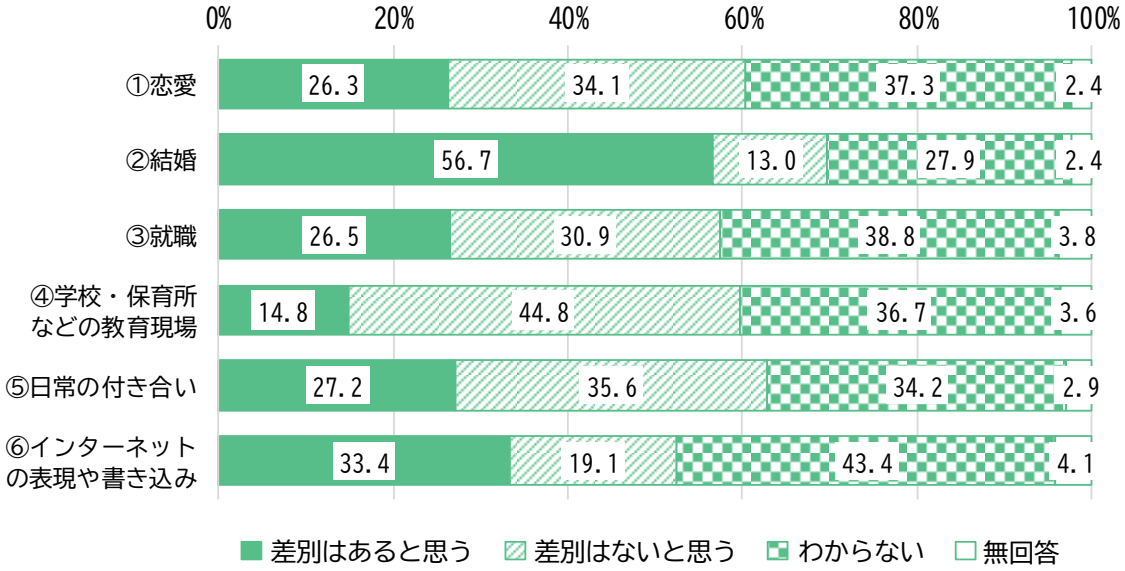
問 38.【問 35 で「1．知っている」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、次の①～⑥の分野について、今日でも同和問題、部落差別があると思いますか。（○印①～⑥の項目ごとに１つずつ）

➢ 全体

“結婚”については「差別はあると思う」が 56.7%で「差別はないと思う」の４倍以上多く、反対に“学校・保育所などの教育現場”では「差別はないと思う」が 44.8%で「差別はあると思う」の約３倍と多くなっています。

“恋愛”“就職”“日常の付き合い”では「差別はないと思う」（約３～４割）が「差別があると思う」（３割弱）よりも多く、反対に“インターネットの表現や書き込み”では「差別はあると思う」（約３割）が「差別はないと思う」（約２割）より多くなっています。

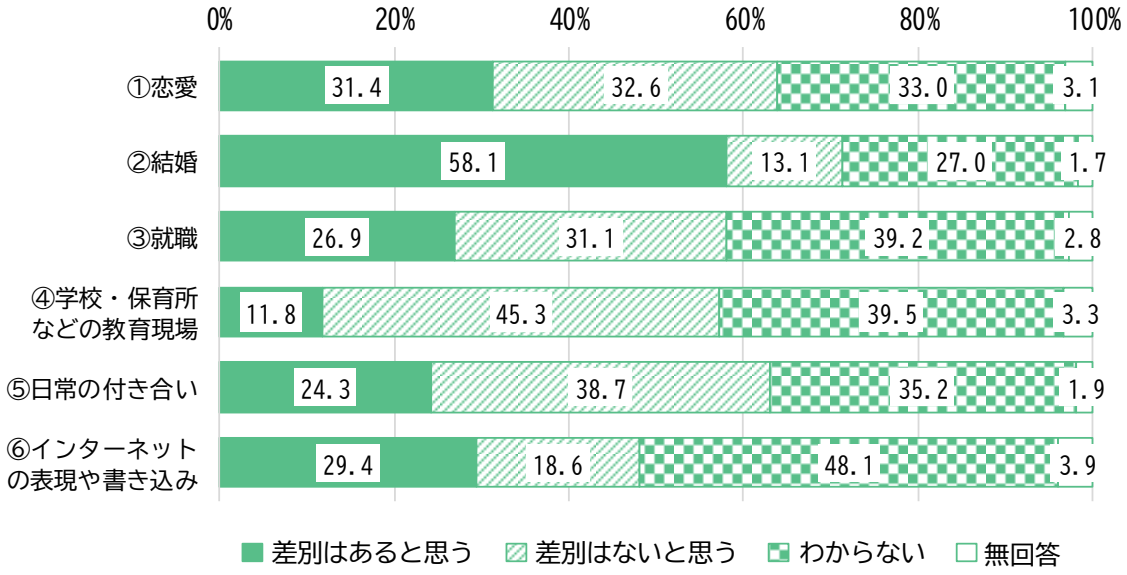
図 14-8　現在の同和問題・部落差別の状況



➢ 平成 29 年度調査との比較

平成 29 年度調査と比べると、今回の調査では、“学校・保育所などの教育現場”“日常の付き合い”“インターネットの表現や書き込み”において「差別はあると思う」が多くなっています。

図 14-9　現在の同和問題・部落差別の状況（平成 29 年度調査）



➢ 年齢別

“恋愛”については、“40～49 歳”で「差別はあると思う」（16.7%）が少なくなっています。

“結婚”については、“18～39 歳”の若い年齢層で「差別はあると思う」（66%以上）が多くなっています。

“就職”“学校・保育所などの教育現場”“日常の付き合い”“インターネットの表現や書き込み”については、“20～39 歳”の若い年齢層で「差別はあると思う」が多くなっており、年齢が上がるにつれ少なくなっています。

図 14-10　現在の同和問題・部落差別の状況（年齢別）その１

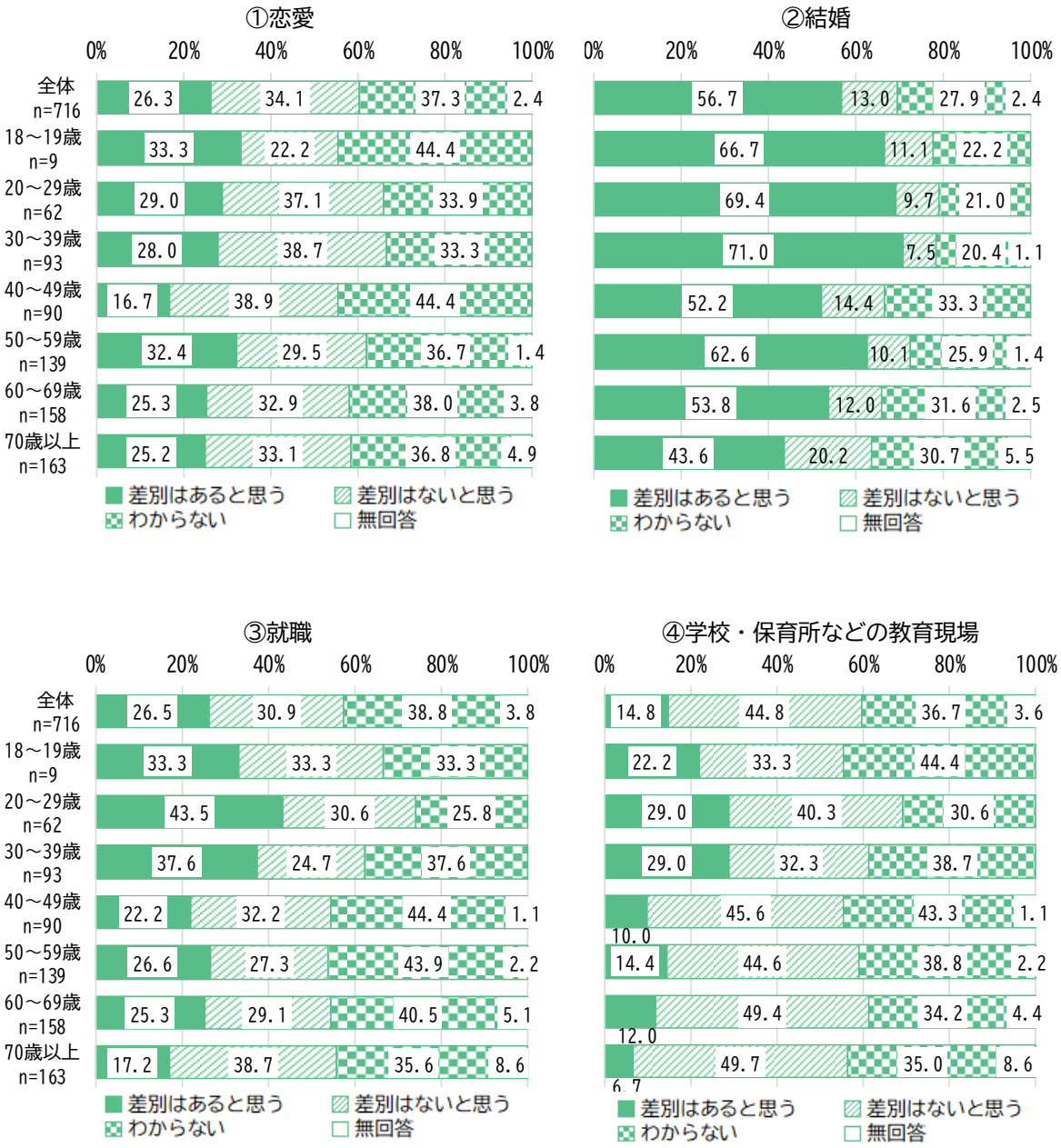
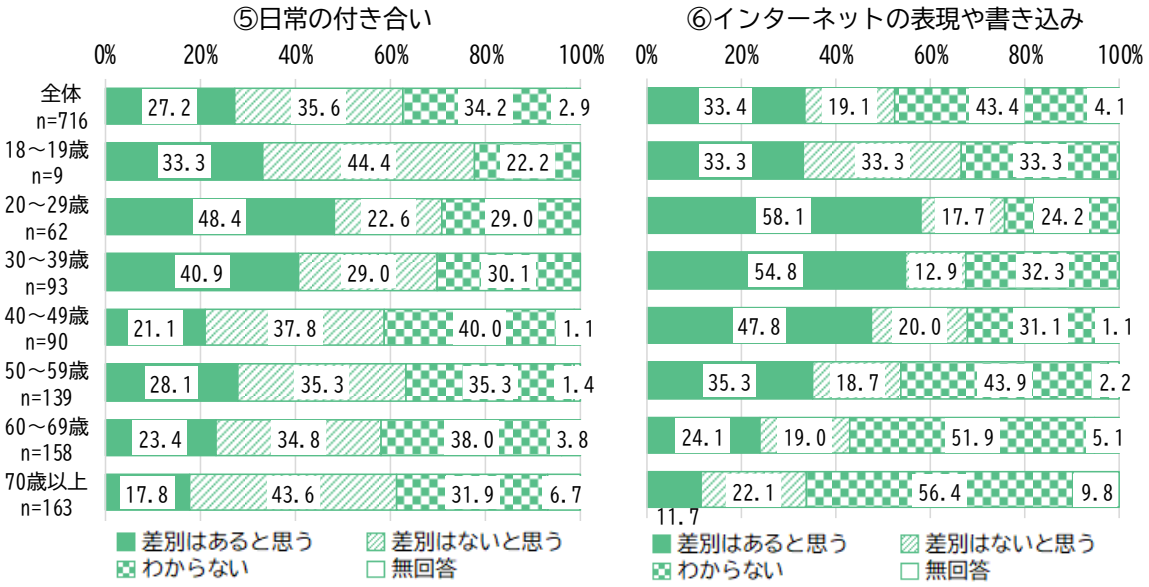


図 14-11　現在の同和問題・部落差別の状況（年齢別）その２



(5) 同和問題についての教育

問 39.【問 35 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。】
あなたは、学校、職場及び地域で同和問題についての教育を受けたり学習をしたことがありますか。(○印はいくつでも)

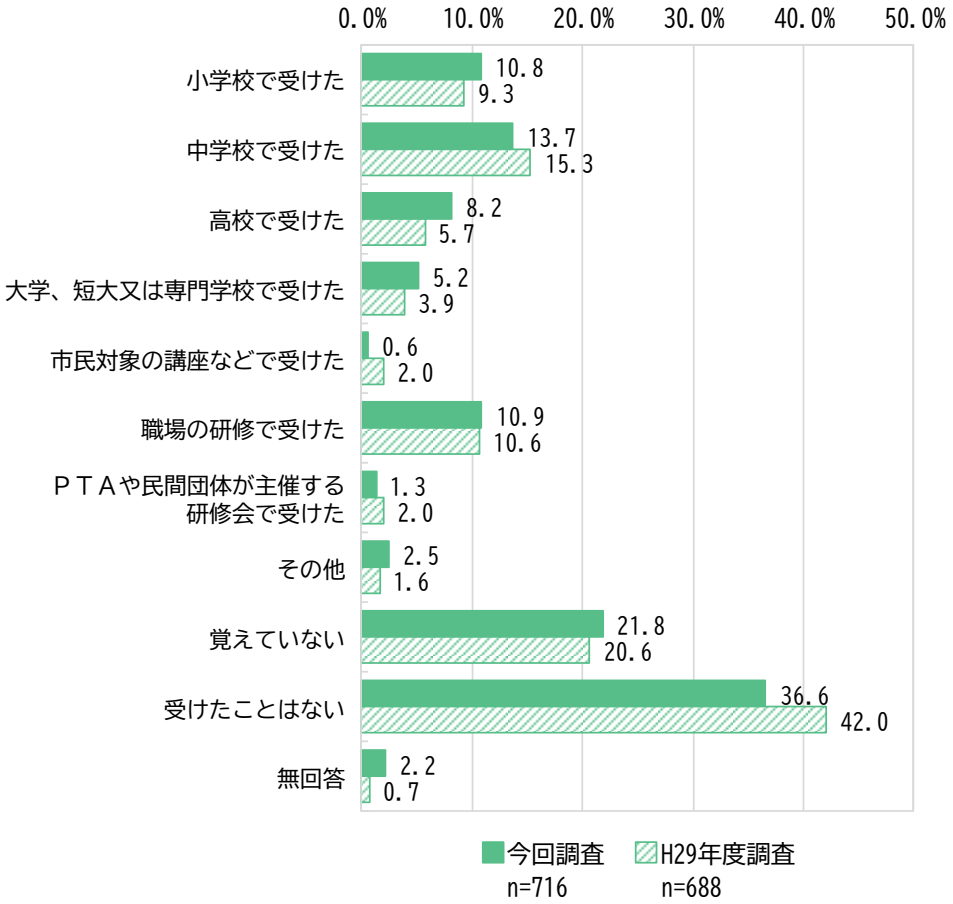
➢ 全体

「受けたことはない」が 36.6%で最も多く、次いで「覚えていない」が 21.8%、「中学校で受けた」が 13.7%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「高校で受けた」が平成 29 年度調査よりも若干多くなっています。
一方、「受けたことはない」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 14-12 同和問題についての教育



➢ 性別

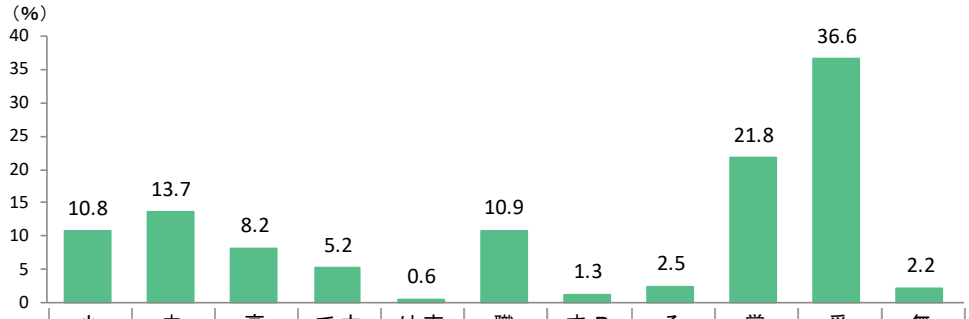
“男性”で「職場の研修で受けた」が 14.0%と、“女性”より多くなっています。一方“女性”では「覚えていない」が 24.9%と、“男性”より多くなっています。

➢ 年齢別

年齢層が高くなるにしたがって「受けたことはない」が高くなり、「中学校で受けた」は低くなる傾向があります。

“39 歳以下”で「小学校で受けた」(18%以上)と「中学校で受けた」(20%以上)、“60 歳以上”で「職場の研修で受けた」(14%以上)が他の年齢層よりも高くなっています。

図 14-13　同和問題についての教育（性別・年齢別）



		(n)	小学校で受けた	中学校で受けた	高校で受けた	大学、短大又は専門学校で受けた	市民対象の講座などで受けた	職場の研修で受けた	PTAや民間団体が主催する研修会で受けた	その他	覚えていない	受けたことはない	無回答
全体		(716)	10.8	13.7	8.2	5.2	0.6	10.9	1.3	2.5	21.8	36.6	2.2
性別	男性	(342)	10.5	12.9	6.7	2.9	0.9	14.0	1.2	3.2	18.4	39.2	2.6
	女性	(369)	11.1	14.4	9.8	7.3	0.3	8.1	1.4	1.6	24.9	34.1	1.9
	その他	(2)	−	50.0	−	−	−	−	−	−	−	50.0	−
年齢	18～19歳	(9)	−	33.3	33.3	−	−	−	−	−	22.2	22.2	−
	20～29歳	(62)	29.0	38.7	17.7	11.3	−	8.1	1.6	−	17.7	12.9	−
	30～39歳	(93)	18.3	20.4	8.6	5.4	−	3.2	−	1.1	31.2	26.9	1.1
	40～49歳	(90)	14.4	15.6	3.3	8.9	−	4.4	1.1	1.1	26.7	38.9	1.1
	50～59歳	(139)	15.1	14.4	11.5	5.0	−	10.8	0.7	2.2	24.5	31.7	0.7
	60～69歳	(158)	4.4	8.2	8.2	5.1	0.6	17.1	2.5	4.4	20.9	38.0	1.3
	70歳以上	(163)	0.6	3.1	3.1	1.2	1.8	14.7	1.2	3.7	14.1	53.4	6.1

（6）同和地区出身者への対応 ……………………………………

問 40. 仮に、日ごろ親しく付き合っている隣近所の人が、何かのことで同和地区出身の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。（○印は１つ）

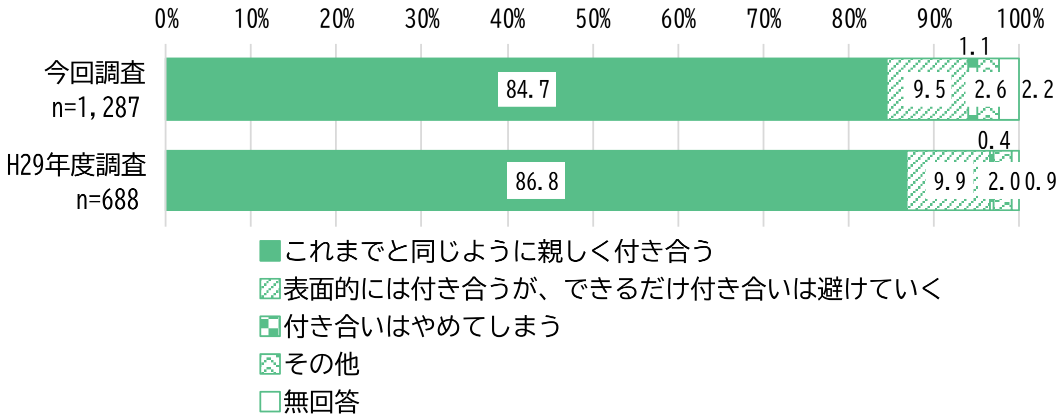
➢ 全体

「これまでと同じように親しく付き合う」が 84.7%と回答を集めており、次いで「表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく」が 9.5%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今年度の調査と平成 29 年度調査は、ほぼ同じ傾向となっています。

図 14-14　同和地区出身者への対応



※平成 29 年度調査は、同和問題を認知している人（問 35 で“知っている”と答えた方）のみの回答。

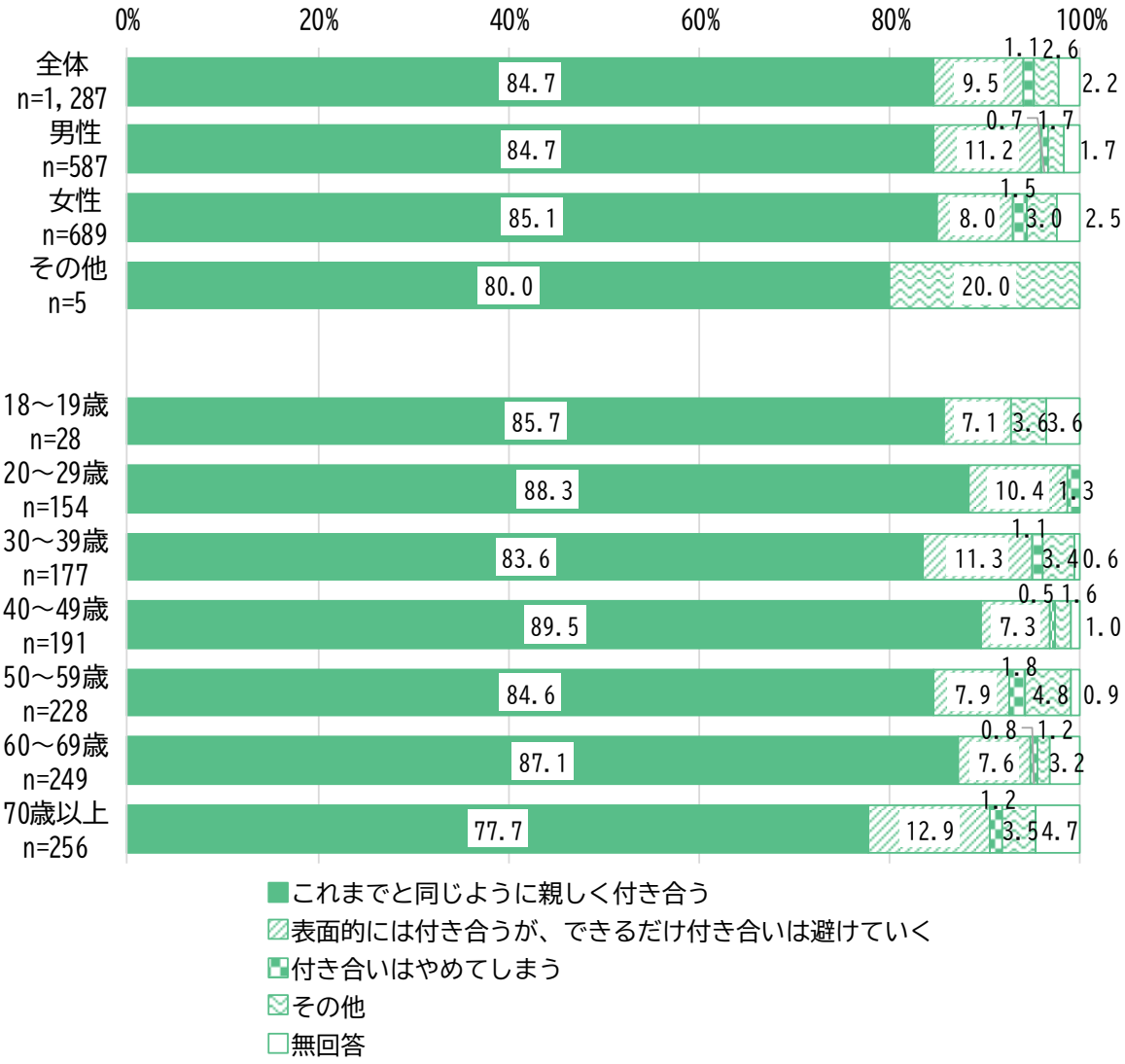
➢ 性別

“男性”で「表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく」が 11.2%と、“女性”より若干多くなっています。

➢ 年齢別

“40～49 歳”で「これまでと同じように親しく付き合う」が 89.5%と最も多く、次いで“20～29 歳”の 88.3%、最も低いのは“70 歳以上”で 77.7%となっています。

図 14-15　同和地区出身者への対応（性別・年齢別）



（7）同和地区の住宅物件 ･･

問 41．あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件を避けることがあると思いますか。（○印は１つ）

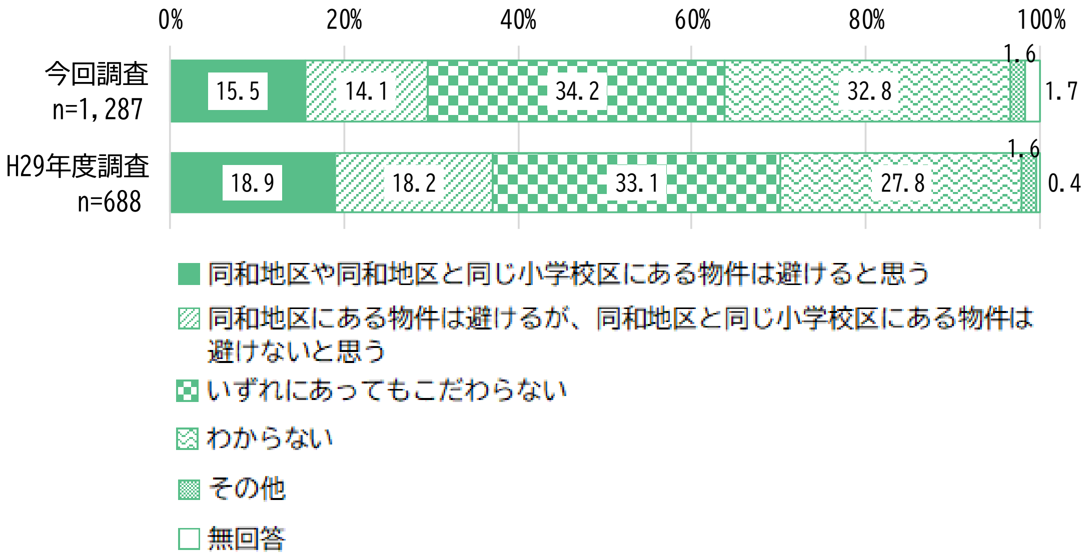
➢ 全体

「いずれにあってもこだわらない」が 34.2％で最も多く、次いで「わからない」が 32.8％、「同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う」が 15.5％となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う」「同和地区にある物件は避けるが、同和地区と同じ小学校区にある物件は避けないと思う」が平成 29 年度調査よりも若干少なくなっています。

図 14-16　同和地区の住宅物件



※平成 29 年度調査は、同和問題を認知している人（問 35 で“知っている”と答えた方）のみの回答。

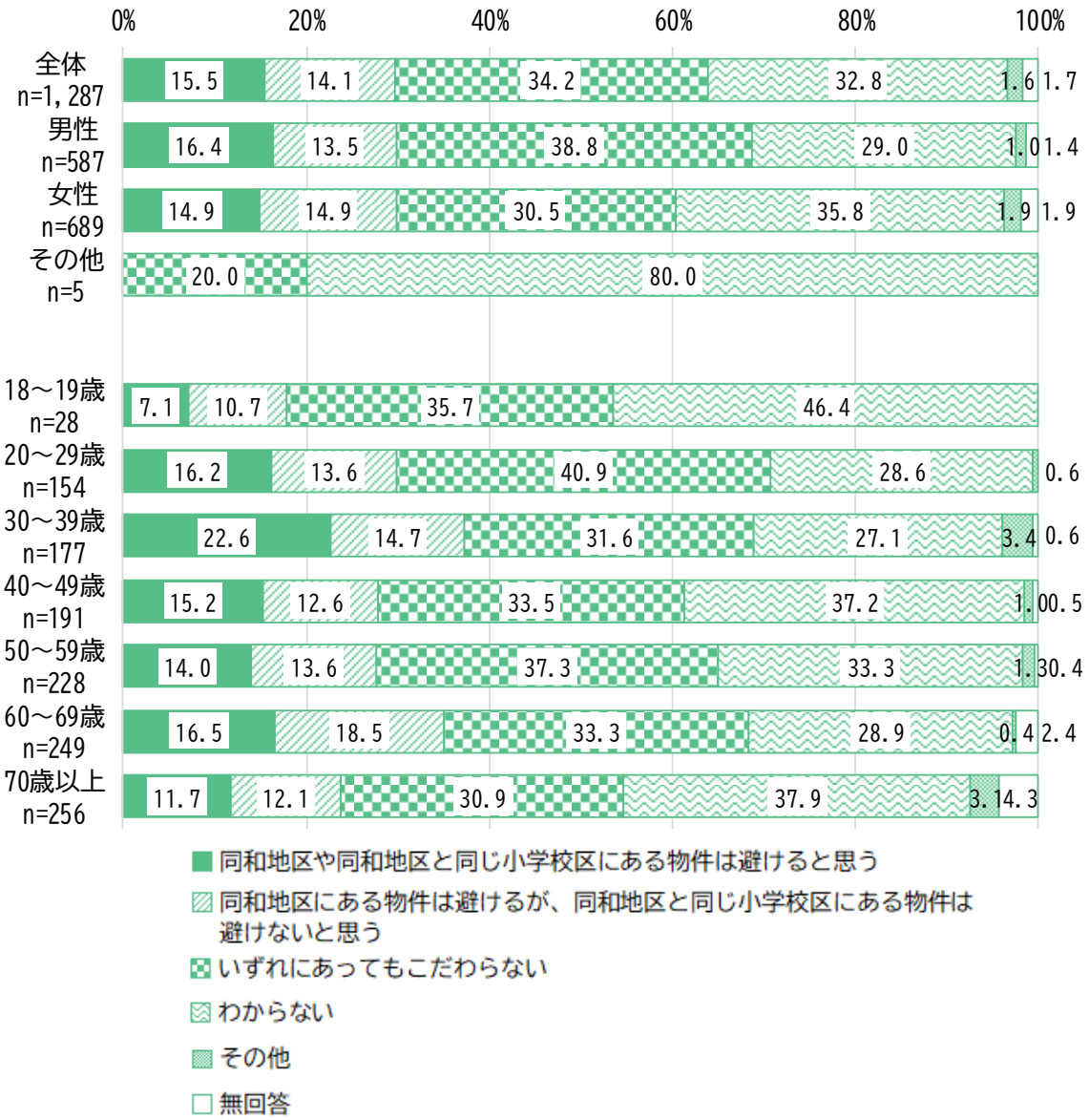
➢ 性別

“男性”で「いずれにあってもこだわらない」が 38.8%と、“女性”より多くなっています。一方“女性”では「わからない」が 35.8%と、“男性”より多くなっています。

➢ 年齢別

“30～39 歳”で「同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件は避けると思う」（22.6%）、“20～29 歳”で「いずれにあってもこだわらない」（40.9%）が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 14-17　同和地区の住宅物件（性別・年齢別）



（8）子どもの同和地区出身者との結婚 ································

問 42.【未婚のお子さんのいる方にお聞きします。】
あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であるとわかった場合、あなたはどうしますか。（○印は１つ）

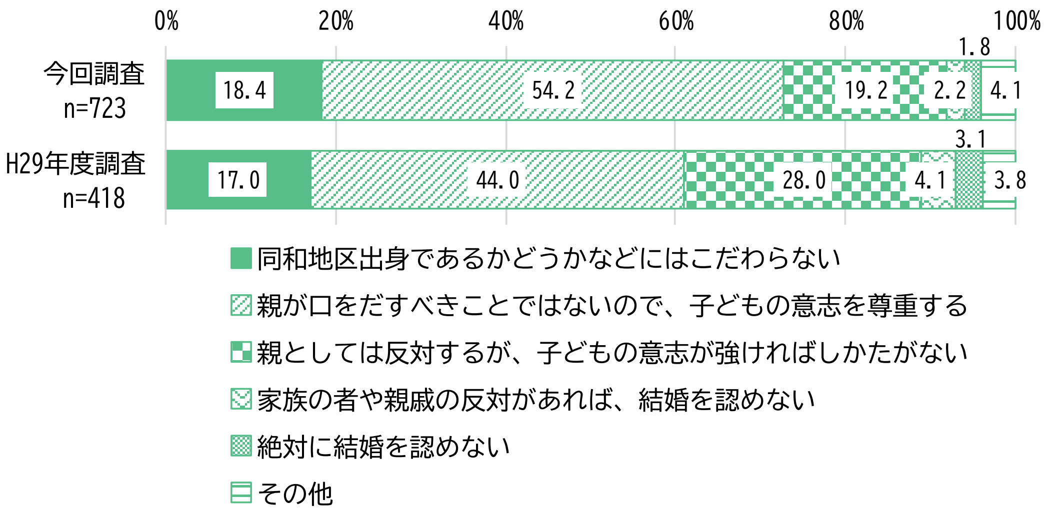
➢ 全体

「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」が 54.2%で最も多く、次いで「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」が 19.2%、「同和地区出身であるかどうかなどにはこだわらない」が 18.4%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」が平成 29 年度調査よりも 10 ポイント以上多くなっています。
一方、「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 14-18　子どもの同和地区出身者との結婚



※無回答を除いて割合を算出
※平成 29 年度調査は、同和問題を認知している人（問 35 で“知っている”と答えた方）のみの回答。

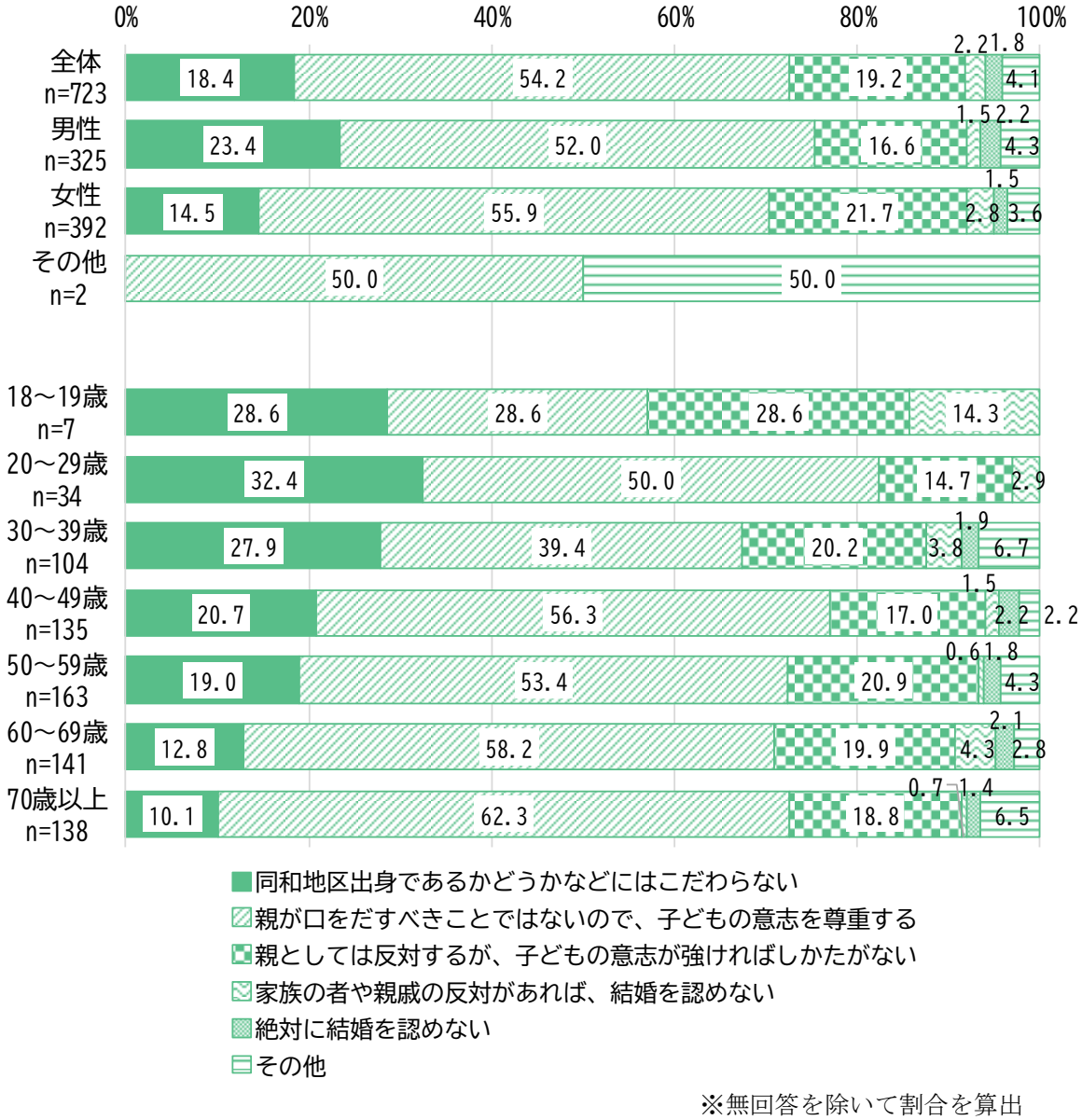
➢ 性別

“男性”で「同和地区出身であるかどうかなどにはこだわらない」が 23.4%と、“女性”より多くなっています。“女性”では「親としては反対するが、子どもの意志が強ければしかたがない」が 21.7%と、“男性”より多くなっています。

➢ 年齢別

概ね若い年齢層ほど「同和地区出身であるかどうかなどにはこだわらない」が多くなる傾向があります。“70 歳以上”で「親が口をだすべきことではないので、子どもの意志を尊重する」(62.3%)、他の年齢層よりも多くなっています。

図 14-19　子どもの同和地区出身者との結婚（性別・年齢別）



※無回答を除いて割合を算出

問 43.【現在、結婚していない方にお聞きします。】
あなたが同和地区出身の人と恋愛し、結婚しようとするとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。（○印は１つ）

➢ 全体

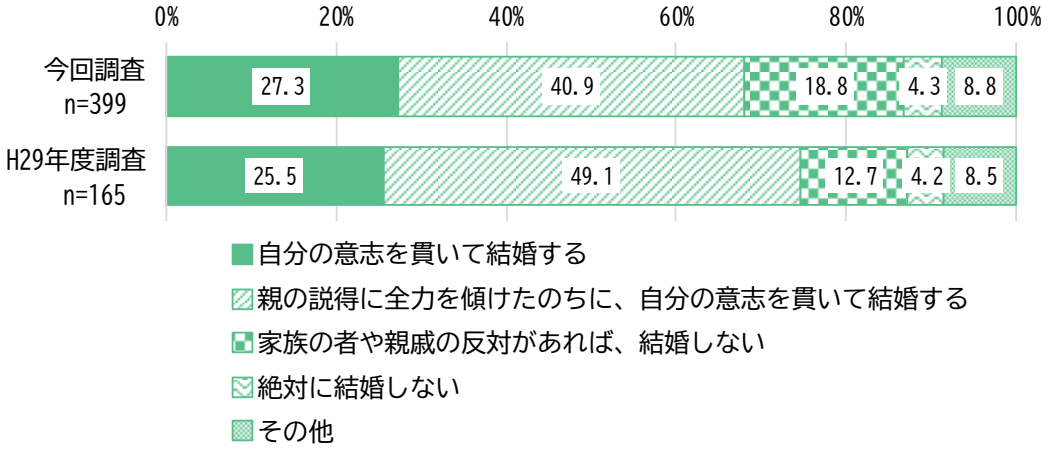
「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」が 40.9%で最も多く、次いで「自分の意志を貫いて結婚する」が 27.3%、「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」が 18.8%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」が平成 29 年度調査よりも多くなっています。

一方、「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」が平成 29 年度調査よりも少なくなっています。

図 14-20　同和地区出身者との結婚



※無回答を除いて割合を算出

※平成 29 年度調査は、同和問題を認知している人（問 35 で“知っている”と答えた方）のみの回答。

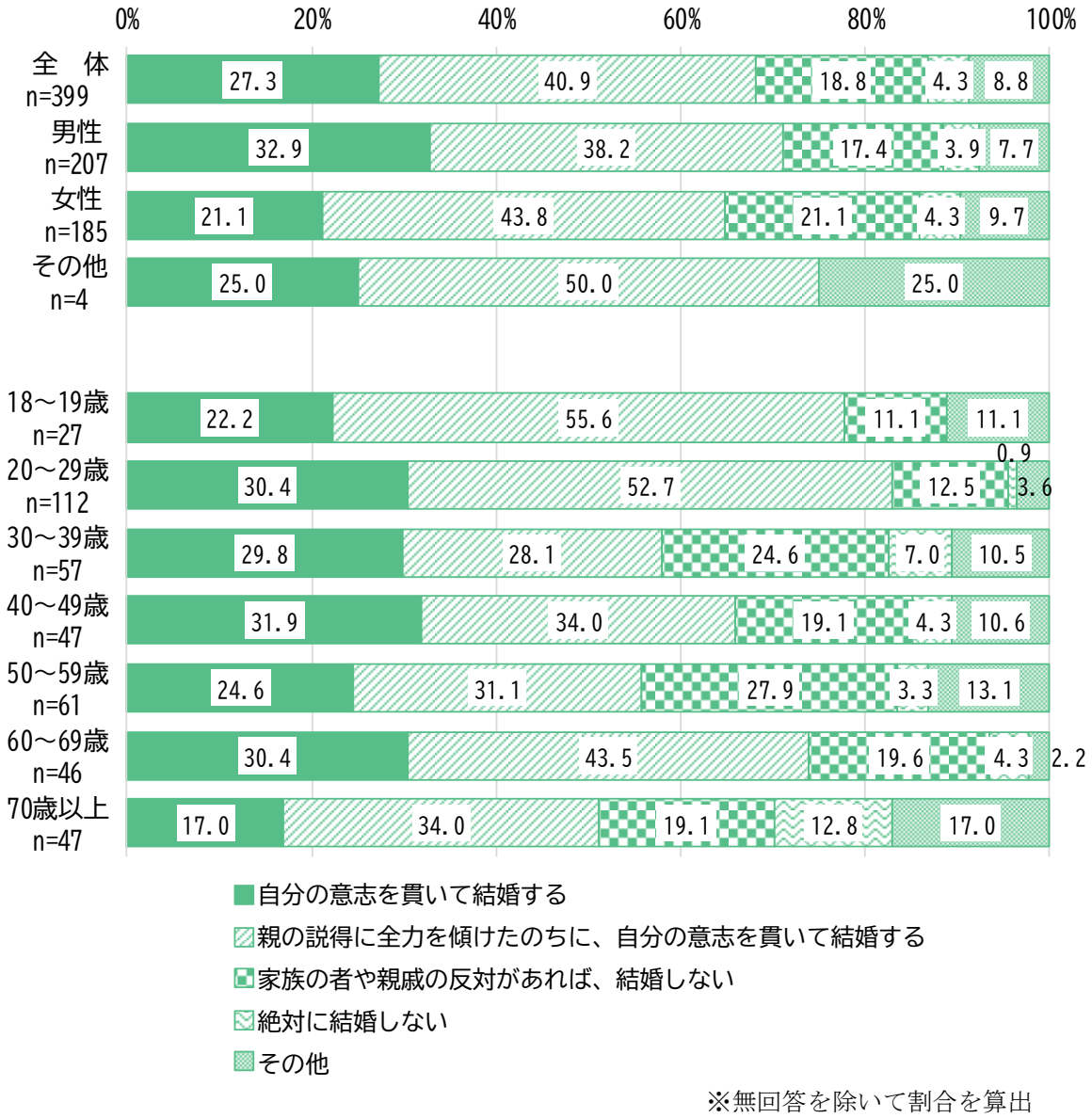
➢ 性別

“男性”で「自分の意志を貫いて結婚する」が 32.9%と、“女性”より 10 ポイント以上多くなっています。“女性”では「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」が 43.8%と、“男性”より多くなっています。

➢ 年齢別

年齢ごとの回答者が少ないですが、“18～29 歳”で「親の説得に全力を傾けたのちに、自分の意志を貫いて結婚する」（52%以上）、“30～39 歳”“50～59 歳”で「家族の者や親戚の反対があれば、結婚しない」（24%以上）が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 14-21　同和地区出身者との結婚（性別・年齢別）



※無回答を除いて割合を算出

（9）同和問題・部落差別の解決に対する考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

問 44. 同和問題（部落差別）の解決に対するあなたの考えに最も近いのはどれですか。
（○印は１つ）

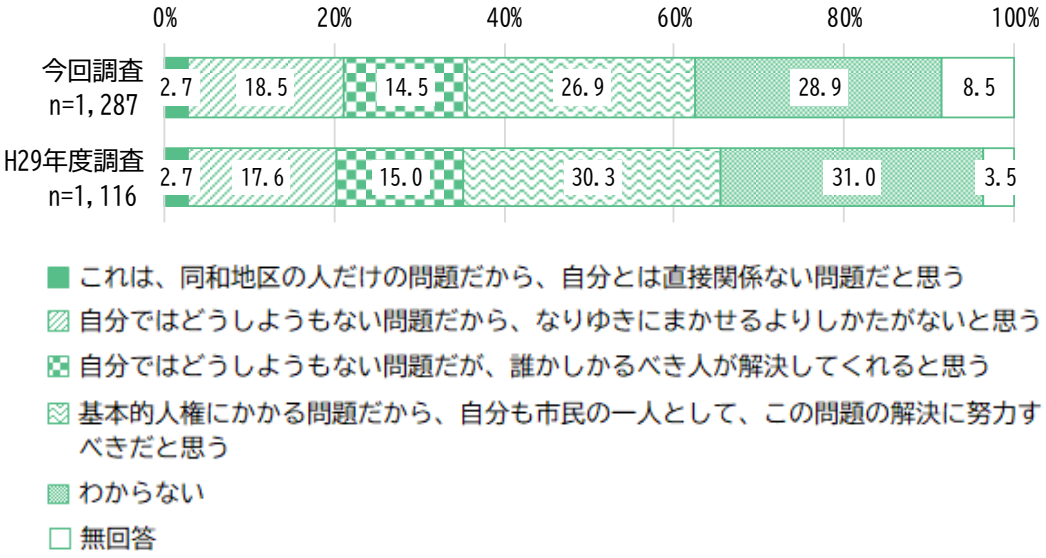
➢ 全体

「わからない」が 28.9%で最も多く、次いで「基本的人権にかかる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が 26.9%、「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う」が 18.5%となっています。

➢ 平成 29 年度調査との比較

今回の調査では、「基本的人権にかかる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」が平成 29 年度調査よりも若干少なくなっています。

図 14-22　同和問題・部落差別の解決に対する考え方



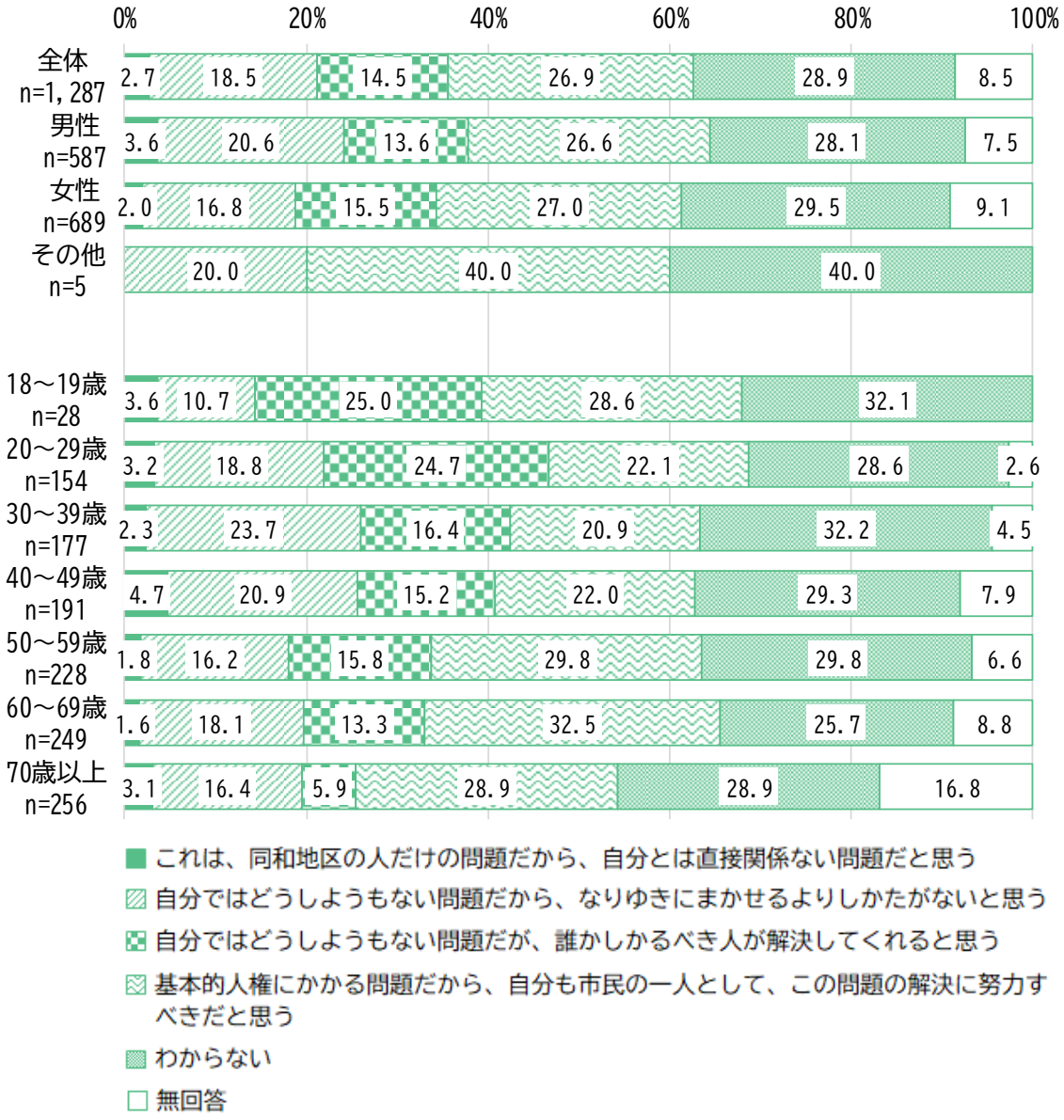
➢ 性別

“男性”で「自分ではどうしようもない問題だから、なりゆきにまかせるよりしかたがないと思う」が 20.6%と、“女性”より若干多くなっています。

➢ 年齢別

“18～29 歳”で「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人が解決してくれると思う」(24%以上)、“60～69 歳”で「基本的人権にかかる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」(32.5%) が、他の年齢層よりも多くなっています。

図 14-23　同和問題・部落差別の解決に対する考え方（性別・年齢別）



➢ 参考　平成 29 年度愛知県調査との比較

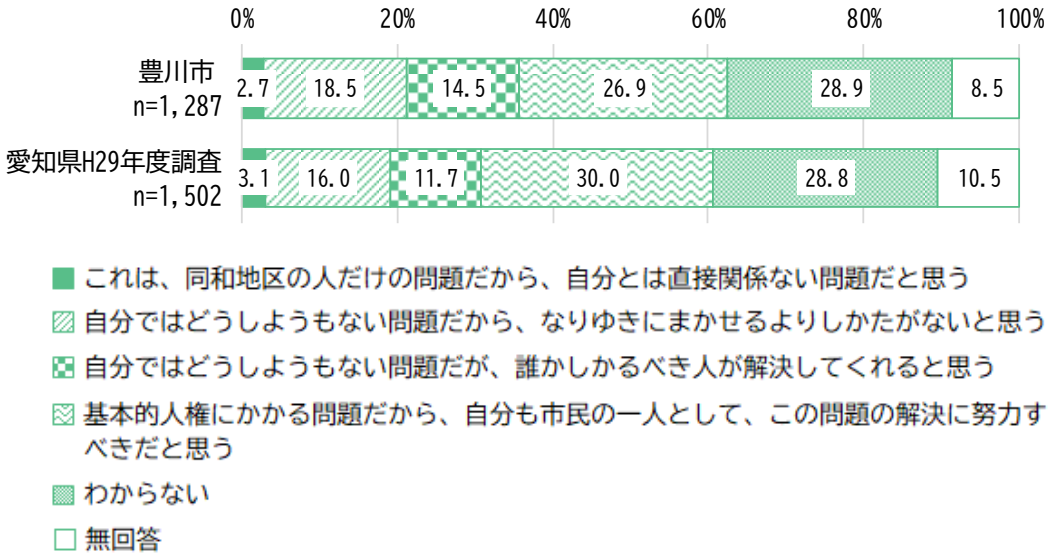



図 14-24　同和問題・部落差別の解決に対する考え方（平成 29 年度愛知県調査との比較）